

26年7月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 6月20日～ 26年7月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
7月分の回答企業数は9社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		26/7月	8月	9月
伐採動向	スギ	△ 7.1	7.1	21.4
	ヒノキ	△ 10.0	0.0	0.0
	カラマツ	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
	エゾ・トド	0.0	0.0	0.0
出荷・販売動向	スギ	△ 14.3	14.3	21.4
	ヒノキ	△ 12.5	0.0	0.0
	カラマツ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	エゾ・トド	100.0	0.0	0.0
手持立木在庫動向	スギ	△ 10.0	△ 20.0	△ 10.0
	ヒノキ	25.0	0.0	0.0
	カラマツ	△ 33.3	△ 33.3	△ 33.3
	エゾ・トド	△ 50.0	0.0	0.0

スギの伐採は7月のやや減が8,9月は増加、ヒノキは7月の減少が8,9月は横ばい、カラマツは減少傾向で推移、トドマツは横ばいで推移。

スギの出荷・販売は7月の減少が8,9月は増加、ヒノキは7月の減少が8,9月は横ばい、カラマツは減少傾向で推移、トドマツは7月の増加が8,9月には横ばいに。

スギの手持立木在庫は減少傾向で推移、ヒノキは7月の増加が8,9月は横ばいに、カラマツは減少傾向で推移、エゾ・トドは7月の減少が、8,9月は横ばいに。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・ 国有林請負事業の天候不順の影響もあるがトドマツは順調に生産。
- ・ 梅雨明け後、生産再開。
- ・ 森林組合委託間伐で、出材を伴わない作業。
- ・ スギの動き鈍い。カラマツは品不足が続いている。
- ・ 天候悪くて仕事が進まない。

(出材・販売動向)

- ・ スギは小丸太と2m材の引き合い多い、カラマツは品不足のため価格強気。

(手持ち立木在庫)

- ・ 立木は国有林公売に適切なものがあれば補充。
- ・ 在庫なし。
- ・ 手持ち少なくなりつつある。